

事務事業名 子ども会育成連絡協議会支援事業

政策:05 生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり

施策:04 学校家庭地域の連携

部名:教育部

課名:生涯学習課

基本事業:04 地域教育力の向上

計画年度	年度	～	年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）				2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
子ども会育成連絡協議会				山武市子ども会育成連絡協議会は、子どもの健全育成を願い、構成団体相互の連絡提携を強化し、子ども会及び育成者の充実発展を図ることを目的にしている。 事務 山武市子ども会育成連絡協議会からの補助金申請に対して、内容を審査し、交付の可否を決定。（5月） ・全国、県、郡、単位子ども会との連絡・調整、情報の提供・取りまとめを行う。（随時） ・郡・県・全国子ども会主催の講習会等の参加とりまとめ				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）								
子どもの健全育成のため、構成団体相互の連絡提携を強化し、子ども会及び育成会の充実発展をはかる。								
4 活動指標・成果指標・事業費の推移								
区分	指標名称			単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	補助金額			円	720	590	500	-
活動指標								
成果指標	山武市子ども会育成連絡協議会主催事業へ参加した単位子ども会延べ数			会	59	57	57	-
成果指標								
事業費				千円	720	590	500	
うち一般財源				千円	720	590	500	
5 目的妥当性								
○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い				地域での子ども会の活動は、子ども達や保護者同士の交流が主であり、その役割は大きく妥当である。				
6 上位の基本事業への貢献度								
● 貢献度大きい（理由→） ○ 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→） ○ 基礎的事務事業				子ども会活動を通して、地域の人々がふれあい、異年齢児の交流にも貢献している。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討								
● 対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる ○ 対象や意図の見直しはできない ○ その他				対象については、現在市子ども会育成連絡協議会に加入していない旧地区の子どもに対しても、子ども会主催事業への参加募集を行っているため、検討の余地がある。				
8 有効性（成果状況）								
● あがっている ○ どちらかといえばあがっている ○ あがっていない				加入単位子ども会の数は、横ばいが続いているが、活動している単位子ども会数の90％程度が、加入していることになる。 22年度からは、蓮沼地区の子ども会も加入予定となっており、加入者数は増えるが、単位子ども会の数が大きく増えることは考えにくいので、成果向上も大きく向上する余地は少ない。				
9 有効性（成果向上余地）								
○ 成果向上余地・大 ● 成果向上余地・中 ○ 成果向上余地・小・無し								
10 事業の再編成								
○ 類似の事業があり、再編成できる ○ 類似の事業はあるが、再編成できない ● 類似の事業はない				各単位子ども会と子ども会構成団体相互の連絡提携を行う他の団体が存在しないため、類似の事業はない。				
11 効率性（コスト削減の方法）								
○ ある ● ない				現段階では、市子ども会育成連絡協議会に加入する単位子ども会数を増やす方針でいるが、補助金については、財政事情を考慮してもらったため、毎年減額していく予定である。				